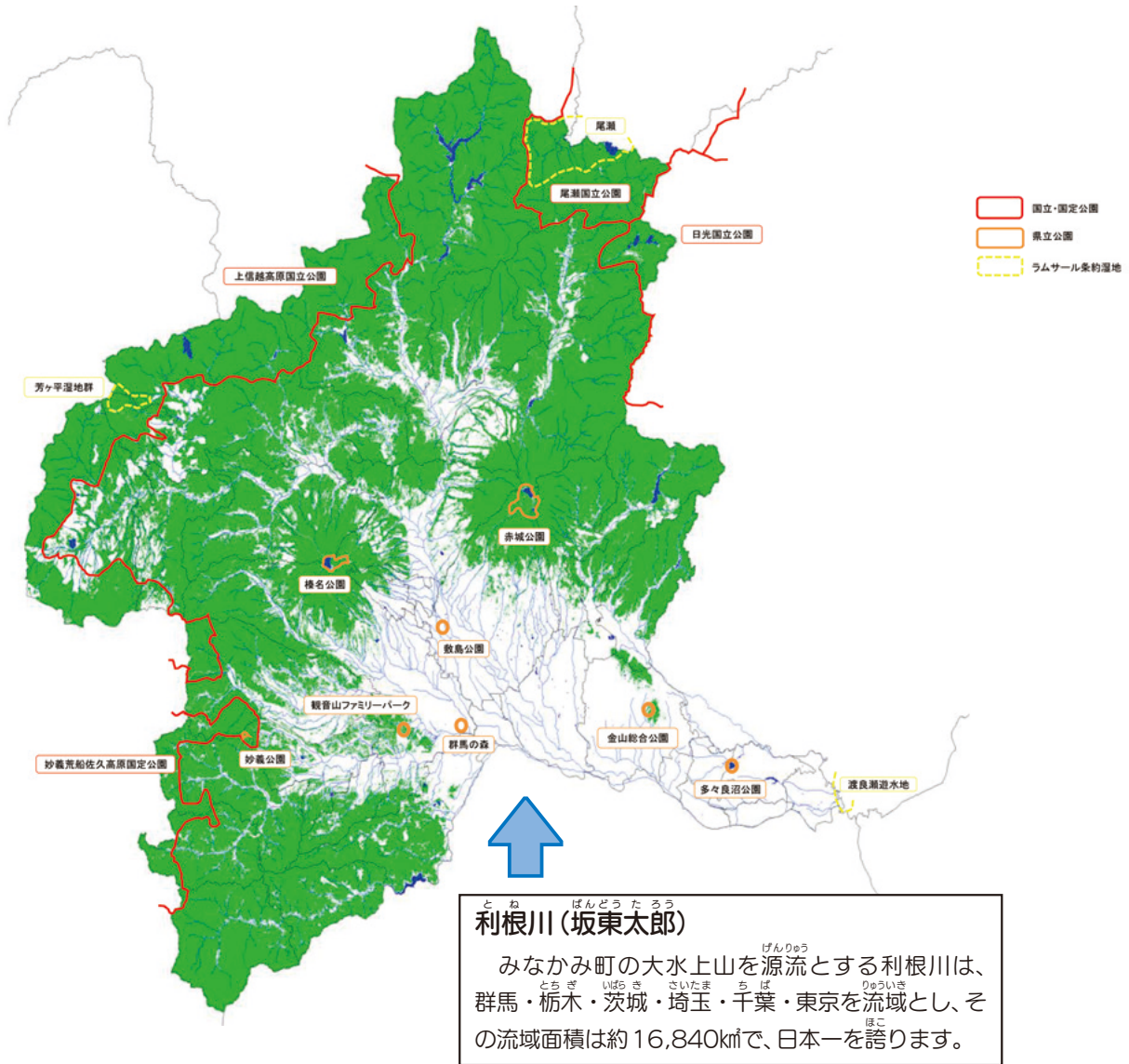




し ぜん 自然のこと

●ぐんまの大切な自然

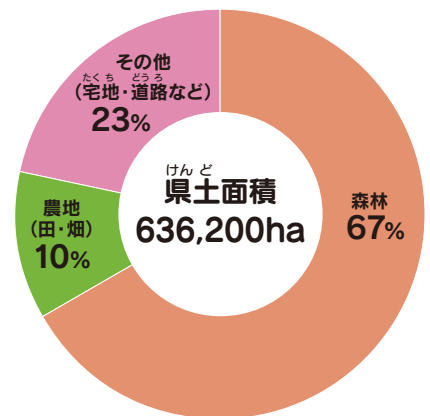


群馬県は日本列島のほぼ中央にあって、面積は約6,362km²、全国で21番目の広さです。面積の3分の2が森林で、山や平地、川、湖など色々な地形がみられます。北部・西部には高さ2,000m級の山々が並び、南東部には関東平野が広がっています。

また、県内にはすばらしい自然の風景が広がる場所として、尾瀬国立公園、日光国立公園、上信越高原国立公園、妙義荒船佐久高原国立公園の4つの自然公園と、赤城公園、榛名公園、妙義公園などの8つの県立公園があります。

このような豊かな自然環境は、わたしたちの生活やたくさんの生き物にとって、とても大切なものです。

●土地利用面積



●おぜ 尾瀬ってどんなところ？

尾瀬国立公園は、群馬県、福島県、新潟県、栃木県の県境にあり、貴重な植物や動物が生きといて、素晴らしい景色があります。日本を代表する自然豊かな場所で、本州最大級の湿原「尾瀬ヶ原」や「尾瀬沼」、「至仏山」、「燧ヶ岳」、「アヤメ平」などがあります。

昭和30年代からたくさんの登山者が訪れ、一部の湿原が荒れてしまいました。そこで、自然を守るために木道をつくったり、昭和40年代からは、荒れた湿原を元のように回復させる取り組みを続けたりしています。昭和47年には、日本の国立公園で最初の「ごみ持ち帰り運動」も始まりました。

このようなことから、尾瀬は日本の「自然保護運動の原点」と言われています。また平成17年には、ラムサール条約湿地に登録されました。

最近尾瀬では、シカによる湿原の踏み荒らしやミズバショウなどへの食害が問題となっています。そのため、環境省や群馬県などが、シカの行動調査や捕獲を行い、尾瀬の環境を守る取り組みをしています。



尾瀬ヶ原

👉 ぐんまの取り組み

●尾瀬ネイチャーラーニング

群馬県では、子どもたちにぐんまの豊かな自然の魅力を活かして、ぐんまらしい学びをしてほしいとの願いのもと、令和3年度から「尾瀬ネイチャーラーニング」を実施しています。

尾瀬ネイチャーラーニングは、尾瀬又は芳ヶ平湿地群の自然環境や観光資源の魅力を生かした学びと体験により、入門的なSTEAM教育を実践することを目的としています。

小中学生が学校で尾瀬又は芳ヶ平湿地群について勉強した後、現地に行くと、少人数グループに分かれてガイドとともに自然環境などを幅広く体験し、学んでいます。さらに、学びを深めるために事後学習に取り組み、学習成果を外部へ発信しています。



尾瀬ヶ原、木道の下に隠れているものは何？

●尾瀬子どもサミット(オンライン開催)

尾瀬を通して、子どもたちの環境問題に対する認識を深めるとともに、群馬県、福島県、新潟県の子どもの交流や触れ合いを図るため、平成6年度から3県合同で「尾瀬子どもサミット」をはじめました。

令和4年度と令和5年度はオンラインで開催し、それぞれの学習の成果等を発表したり、交流を図ったりしました。



●生物多様性ってなに？

たくさんの種類の生き物が、互いに関係し合いながら、いろいろな環境の中で生態系を保っていることを「生物多様性」といいます。生物多様性は、長い時間をかけて生命が築いてきたかけがえのないものです。わたしたちが生きていくためには、生物多様性がもたらすきれいな水、食べ物、安定した気候などが欠かせません。しかし、今、森林などの開発、里山の手入れ不足、外来生物の増加、地球温暖化などによって、生物多様性がおびやかされています。

群馬県では、野生の生き物を調査して、絶滅してしまった動植物やそのおそれがあると判断された動植物を群馬県レッドデータブックにまとめています。群馬県では、663種の植物と551種の動物が絶滅やそのおそれのある種として掲載されています。

また、県内で絶滅のおそれのある野生の生き物18種(植物14種、動物4種、令和5年9月現在)を指定して、保護することになっています。これらの生き物を無断でつかまえたりすることはできません。

●外来生物ってなに？

もともとその地域にはいなかったのに、人間によって他の地域から運びこまれた生き物のことを外来生物といいます。外来生物の中には、もともとその地域にいた生き物のすみかをうばったり、畑の作物を食べてしまうなど、悪い影響をおよぼすものがあります。

外来生物はペットや食用として持ちこまれたものだけでなく、外国からの荷物にまぎれこんでくるなど、思わぬところからも広がっています。

ペットショップでは、外国のめずらしい生き物も売られています。こうした生き物を飼うときは、地域の生態系を守るために、最後まで責任をもって飼いましょう。

県内で絶滅のおそれがある生き物の例



タチスミレ



ゲンゴロウ

コラム

クビアカツヤカミキリについて

クビアカツヤカミキリは、もともとは中国などの外国に生息している大型のカミキリムシです。幼虫がサクラやウメ、モモなどの木の中を食い荒らし、その被害が続くと木が枯れてしまうので、将来、お花見ができなくなったり、ウメやモモなどの農作物が収穫できなくなるかもしれないと心配されています。

群馬県では、東部地域から中西部地域にかけて被害が確認されていて、令和5年度の調査では、7,657本の木で被害が確認されました。

成虫の発生時期は6月から8月にかけてですが、幼虫は春先から活動を始めており、木の中を食い荒らすので、被害を受けている木の根元からは「フラス」と呼ばれる、かりんとうのような形をした木くずとふんのかたまりがたくさん出てきます。

クビアカツヤカミキリの被害をこれ以上広げないためには、早く見つけて早く駆除することが大切です。成虫を見つけたら、できるだけその場で駆除してください。



クビアカツヤカミキリ成虫



フラス(木くずとふんのかたまり)

●ぐんまの自然を未来に残していくためにわたしたちができること

自然を守る第一歩は、身近な自然を知ることから始まります。まずは近くの雑木林やため池、川、水路、道ばたの草むら、家の庭などを観察してみましょう。

また、野山に出かけたときはごみは捨てずに持ち帰る。自然を大切に、動植物を傷つけない。ペットはきちんと飼い、捨てたりしない。このような、わたしたち一人ひとりの心がけや取り組みが、ぐんまのすばらしい自然を未来に残すことにつながります。

ことばの説明

★ラムサール条約湿地（らむさーるじょうやくしっち）

水鳥が生息するために重要な湿地とそこにすむ生き物を、世界の国々が協力して守ることを条約で決めた湿地。

★STEAM教育（すていーむきょういく）

Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）の頭文字をとったもの。学習したことを実社会で生かしていくことを目指す。

★生態系（せいたいけい）

生物同士のつながりと、それらを取りまく環境のまとまりのこと。

●野生鳥獣被害対策ってなに？

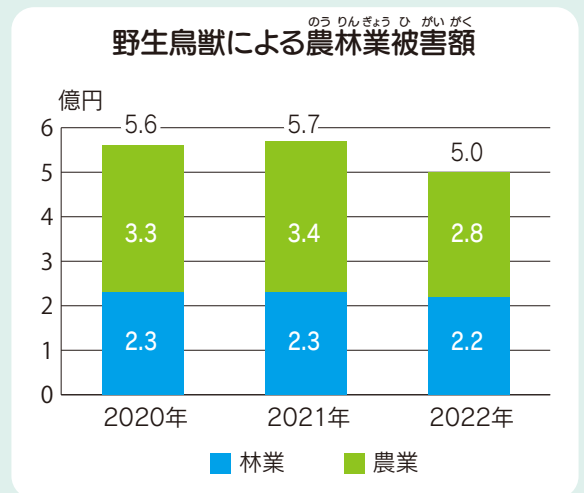
人と野生動物の関係は古く、「桃太郎」や「猿かに合戦」などの昔話によく登場する身近な存在でした。

一方で、現実では必ずしも仲がよかったわけではありません。人はシカやイノシシなどの動物をつかまえて食べ、農業が始まると、野生動物を田んぼや畑を荒らす迷惑な存在として扱うようになりました。そして、文明や産業の発展、人口の増加とともに野生動物は追い詰められ、多くの野生動物は絶滅の危機を迎えました。

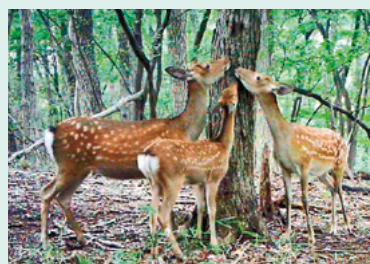
しかし、1990年代頃から人と野生動物の関係に変化が occurred。山村地域の人口減少で人間の活動範囲が狭

くなるにつれて、野生動物の活動範囲が広がったために、農作物が食べられてしまったり、人が襲われて怪我したり、野生動物との交通事故が増えたりするなどの問題が起きたのです。令和4年度の群馬県の野生鳥獣による農林業被害額は約5億円と、非常に大きな被害を受けています。また、シカが若葉を食べ過ぎて植物が枯れてしまうなど、自然環境にも影響が出ています。

これに対して群馬県では、野生動物を捕まえる人を育成したり、田んぼや畑に野生動物が入らないように柵を設置するなどして、対策を進めています。



金網設置作業の様子

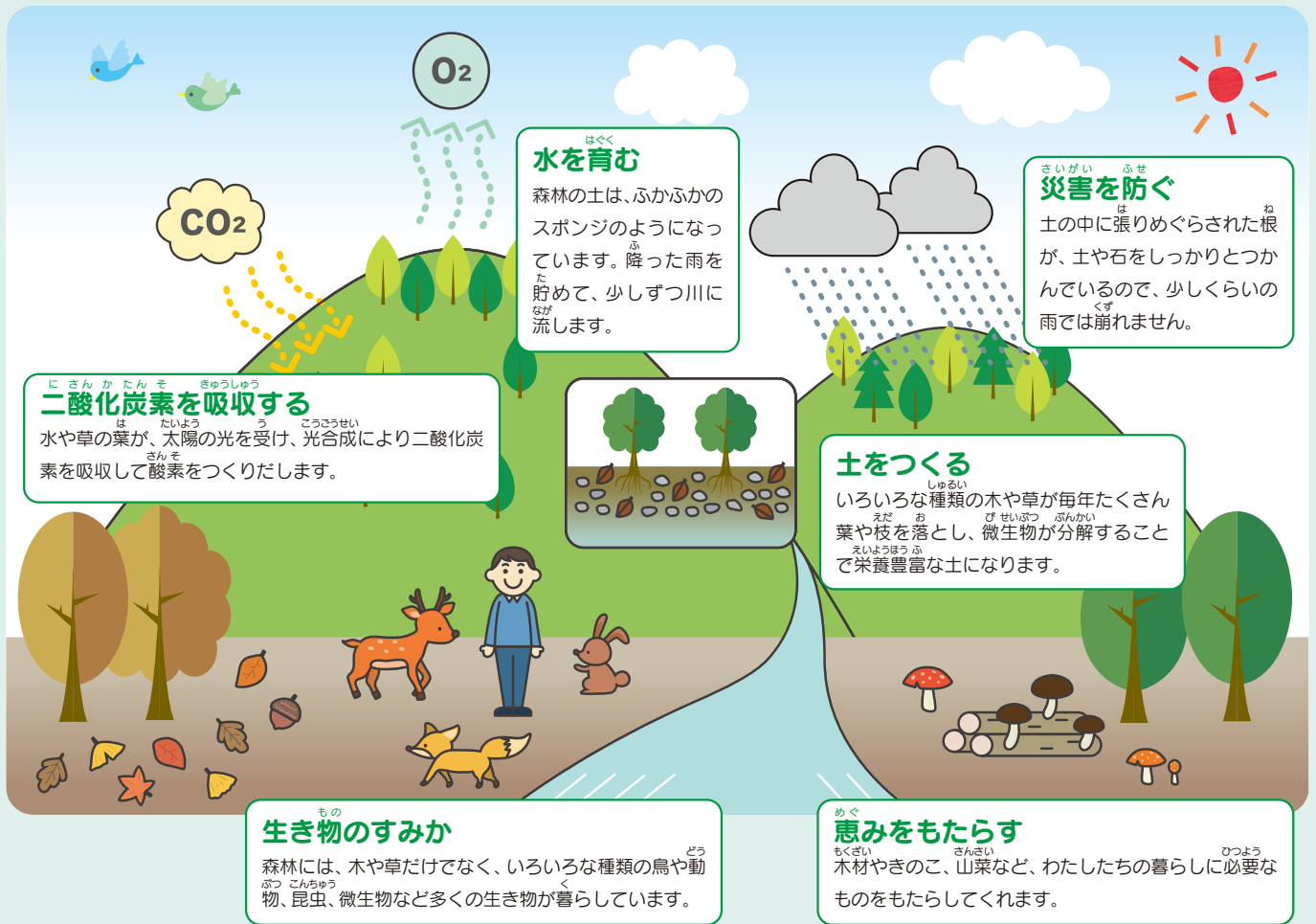


ニホンジカ



イノシシ

森林のはたらき



●森林の手入れ

群馬県の森林は県の面積の67%を占め、そのうち41%（県土面積の28%）は人が植えて育てている「人工林」と呼ばれる森林です。

人工林は、手入れをしないで放っておくと、成長した木で混みあい光が入らず森林の中は真っ暗になります。暗い森林では草が生えず、雨のたびに大切な土が流されてしまい、災害の危険もあります。生き物も住めなくなってしまいます。

このような森林には、間伐（間引き）などの手入れが必要です。間伐をすると、森林の中まで太陽の光が届き、草や実のなる小さな木がよみがえり、災害の心配も少なくなるほか、昆虫や鳥、動物などの生き物たちも暮らせるようになります。伐られずに残った木はぐんぐん成長し、二酸化炭素を多く吸収するようになります。森林の手入れが、地球温暖化防止にもつながるのです。



間伐前



間伐後



ぐんまの取り組み

◇フォレストリースクール

学校の要望に沿って、「群馬県緑のインタープリター」が、学校の森林について体験する授業をお手伝いします。

○「緑のインタープリター」とは

群馬県が養成及び認定した、森林や林業、自然体験活動等の森林環境教育をする人

○プログラムの例

樹木・自然観察、ネイチャーゲーム、林業体験、自然工作など



●問い合わせ先 群馬県 林政課 電話:027-226-3216

自然のことについて、もっと知りたい人のために…

■本で調べてみよう

★『地球温暖化と森林』(全国林業改良普及協会) 平成19年発行

森林のはたす役割をとおして地球環境のことが調べられます。

★『森と水(水を育む森、森を育む水)』(全国林業改良普及協会) 平成17年改訂版発行

森林の水源かん養機能やその機能を高める方法がまとめられています。

■インターネットで調べてみよう



★こども森林ひろば < <http://www.green.or.jp/kodomo/> >

森と生き物の関係、くらしの中で使われている木のことなどが、動画で楽しく学べます。



★しってるかな?外来生物。 < <https://www.env.go.jp/nature/intro/kids/index.html> >

外来生物について考えるために必要な基本的なことが学べます。

■行ってみよう



★群馬県立自然史博物館(富岡市上黒岩) < <http://www.gmnh.pref.gunma.jp/> >

地球の生い立ちから生命の進化の歴史、群馬県の豊かな自然について、展示や映像により学習することができます。



★県立森林公園 憩の森 (渋川市伊香保町) < <http://www.ikaho-forestpark.info/> >

森林について学べる展示室やフィールドが整っています。



★群馬県立ぐんま昆虫の森(桐生市新里町) < <http://www.giw.pref.gunma.jp/> >

「昆虫」をテーマにした体験型教育施設で、そこで暮らす昆虫を探し、手に取り、その生態をじっくり観察できます。